全身麻酔を受けられる お子さまのご両親へ

全身麻酔ってなんでしょう？

麻酔とは手術が行われている間の痛みを除くとともに、患者さんの状態を厳重に守り、手術が安全に行われるように全身の状態の管理にあらゆる努力をすることです。

お子さまは麻酔科医によって痛みやその他のあらゆる苦痛を取り除かれるだけでなく、血圧、呼吸、体温などの全身状態が正しく管理された状態におかれ、外科医による手術を安心して受けられるのです。

麻酔なしでお子さまが手術を受ける場合を想像してみて下さい。「今までみたことのない部屋」に「見慣れない人々」、「手術の道具や手術による痛み」、などにお子さまが我慢できるでしょうか？　痛みや恐怖心、精神的苦痛を少しでも取り除き、お子さまがよりよい手術を受けるためには専門の麻酔科医による全身麻酔が必要です。

（1）どのような方法で全身麻酔をするのでしょう

全身麻酔の方法にはいろいろありますが、お子さまの場合はマスクを顔にあてて、麻酔薬を吸入して眠ってもらいます。

数回の呼吸のうちにお子さまが眠ったところで、さらに麻酔を深くして、お子さまが痛みを感じなくなったところで、点滴をします。

その後お子さまが息をするのに必要な細い管を口から気管に入れます。この管から麻酔の薬を送り込んで、手術の間、麻酔状態にします。

どうしてもこのマスクがいやで、点滴を先にしてそこから麻酔の薬を入れた方がいいというお子さまには、さきに点滴をすることもあります。

（2）どういう場合に麻酔を受けられないのでしょうか？

いちど外科医が予定した手術でも、麻酔科医の術前診察の結果、延期した方がいいという場合があります。

麻酔ガスの全身麻酔ですので、風邪のはじまりで喉や鼻の状態がおかしい場合、咳のひどい場合、熱が上がってきている場合、喘息の発作があってしばらくしてからの場合は、全身麻酔中や後の合併症を増やす可能性が大きいので麻酔を延期した方が賢明です。

ほかにも予防接種を受けてすぐや水痘などの伝染病にかかっている可能性がある場合には、延期することもあります。

（3）なぜ全身麻酔の前に食事が厳重に制限されるのでしょう

麻酔中は睡眠中とは違い、胃の中に内容物がたまっていますと、嘔吐をおこしやすく、これが肺にはいると窒息をおこし、大変危険な状態になります。

そこで全身麻酔をかける場合には、あらかじめ胃の中を空にしておくことが大切なのです。

かわいそうだからといって指示以外の時間に食べ物を与えたりしますと、取り返しのつかないことになる場合がありますので必ず守って下さい。

（4）手術当日のながれ

●前投薬

少しでもお子さまがご両親と離れるときに泣かないですむように、手術の前に病室でうとうとする甘いお薬を飲んできてもらうか、上手く飲めないお子さまにはお尻からお薬をいれてきてもらいます（ふつう6ヶ月以降のお子さまからです）。

お子さまによって、すやすやと寝てしまったり、すこしぼーっとしたり、全然きかなくて泣き叫んだままだったりと反応はさまざまです。

みんながきくようにと強いお薬をだすと、息ができなくなってしまうこともあるので、強いお薬はだせません。

そのかわりお気に入りのお人形や玩具やタオルをもって入ってきても構いません。

手術室の中に行くときは、泣いているお子さまの場合、なるべく恐怖心をあおらないようにだっこしたりもします。

●手術室に入って

先ほどお話ししたマスクをあてる前に、心電図のシールをはって、血圧計を腕章のように腕にまきます。

手の指か足の指か耳たぶに、酸素の濃度をはかるためのシールをまきます。これらの準備の後、マスクをあてて麻酔がはじまります。

●痛み止め

全身麻酔中はお子さまは眠っているので痛くありませんが、手術が終わって麻酔から覚めてくると傷が痛くなってきます。

お腹を切るときや足の手術の時、手術後の痛みがなくなるように、お子さまが眠って手術が始まる前に、背中から細い針をさして傷のところの神経の近くまで針を進めて、痛み止めの薬をいれることがあります（硬膜外麻酔）。この薬は手術の後、一番痛いときに効いて、そのあとは自然にお薬の効果がきれていきます。

他には、お尻から痛み止めの薬をいれたり、点滴から痛み止めのお薬をいれたりすることもあります。

●麻酔が終わると

手や足に点滴がはいったままご両親のところに戻ってきます。（手術が終わって2,3時間は吐いたりする危険性があるのでまだ口から飲めません）お子さまによっては鼻から管が入っていることもあります。

手術室で麻酔は覚ましますが、お部屋に入ってすぐの時はまだ、痛み止めが効いてぼーっとしています。しっかり目が覚めてくるのは、手術が終わってしばらくしてからです。

(5) 全身麻酔による副作用について

ご両親にとってお子さまに手術を受けさせるということだけでもショックなのに、まして全身麻酔を受けるとなるとさらに心配なさるのは当然のことです。

たしかに麻酔による死亡がまったくないというわけではありませんのでご心配も無理のないことです。しかし、麻酔を専門とする医師のいる病院でのこうした事故は、交通事故による死亡事故の頻度（約1万人に一人）よりもはるかに少ないのです。また麻酔によって頭が変になったなどということはきいたことがありません。

しかし、麻酔による大きな事故がほとんどないからといって全身麻酔に危険性が絶対ないとは断言できません。まれにお子さまの特異体質や手術前の状態によっては麻酔により危険な状態に陥る可能性があります。それ故、麻酔をかける前に麻酔科医が充分な診察をして、お子さまの全身状態を知る必要があります。

また、麻酔の間、お口から喉に息をするための管が入るので、管をぬいたあと喉が痛くなったりすることもあります。

手術後の痛み止めのために背中から針を刺すときは、刺したところから出血したり、感染をおこしたりすることも全くないとはいえません。

(6) さいごに

これまでの説明で麻酔についてはご理解頂けたかと思います。

しかしそれでも尚、麻酔や手術に対する不安は大きいことと思います。

なにかありましたら、麻酔科医にお聞き下さり、納得がいくまで遠慮なくご質問下さい。